



# はじめに

Prologue

## ごあいさつ



農林水産大臣 森山 裕

G7新潟農業大臣会合は、4月23日と24日の2日間にわたり、G7そして世界の食料安全保障の強化のための方策について充実した議論を行い、世界に向けた力強いメッセージを「新潟宣言」として採択・発出し、成功裡に終えることができました。G7新潟農業大臣会合開催推進協議会をはじめ、関係者の皆様におかれましては、準備段階から会合当日の歓迎行事、さらに現地視察に至るまで、多大なる御支援と御協力を頂き、心から感謝を申し上げます。

「新潟宣言」では、世界の食料安全保障を強化する観点から、農村地域の活性化と農業者の所得の向上、食料供給システムの強化・改善、持続可能な農林水産業の確立に向け、G7が連携して取り組んでいくことが謳われています。我が国としては、産業政策と地域政策を車の両輪として進め、農業の体質強化を図り、食料自給率を向上させていくことが、新潟宣言の実行に繋がるものと考えています。今後、各国と緊密な連携をとりながら、強く豊かな農林水産業、美しく活力ある農山漁村を創り上げていく所存です。

本会合の開催地である新潟は、かつては腰まで浸水しながら田植えをするなど苦勞の多い低湿地でしたが、土地改良事業で排水施設を整備し、困難を乗り越え、今では我が国が誇る豊かな米どころに生まれ変わったところであり、瑞穂の国の原点といえます。また、素晴らしい米の新品種の開発にも成功するなど、日本の農業の進むべき道を示しておられます。このような場所でG7農業大臣会合を開催できたことに、大変感謝しています。

最後に、今般の会合を成功に導いた功勞者である、G7新潟農業大臣会合開催推進協議会をはじめ、新潟県、新潟市の方々やボランティアの方々、警備に昼夜を問わず携わられた新潟県警察、第九管区海上保安本部の方々、温かい歓迎の心を示していただいた地元新潟の全ての方々に対し、心から感謝を申し上げるとともに、新潟の今後ますますのご発展を祈念しています。

## ごあいさつ



G7新潟農業大臣会合開催推進協議会 最高顧問  
新潟県知事 泉田裕彦

2016年サミットの関係閣僚会合であるG7新潟農業大臣会合が、4月23日と24日の2日間、本県の朱鷺メッセで開催されました。

サミットの農業大臣会合としては日本で初めての開催となる今回の会合が、日本有数の農業県である本県で開催されたことは、非常に意義深いものと考えております。

また、会合では、食料安全保障や持続可能な農業など現在及び将来に向けて世界が直面する課題について議論され、その成果が「新潟宣言」として世界に発信されました。開催地として大変喜ばしいものと考えております。本県としては、農産物の輸出等を含め、農業をさらに拡大することで、食料安全保障に貢献していけるよう努めてまいります。

新潟は、海や山などの豊かな自然に恵まれ、四季の変化もはっきりしています。世界に誇れる新潟の魅力の一つとして、この豊かな自然に育まれた「食」があります。G7各国及び関係機関の代表団の方々には、歓迎行事等を通じて、新潟の米を始めとした県産食材による「和食」や県内蔵元の日本酒など、新潟の「食」を楽しんでいただきました。新潟の伝統文化なども含めたおもてなしに、大変喜んでいただき、新潟の魅力を実感いただけたものと思います。

2008年のG8労働大臣会合、2009年の国連軍縮会議、2010年のAPEC食料安全保障担当大臣会合に加え、今回のG7新潟農業大臣会合の成功により、新潟の国際会議開催の実績をさらに重ねることができました。これらの経験を今後のさらなる国際会議の誘致につなげ、本県の交流人口の拡大や経済の活性化に努めてまいりたいと考えております。

最後に、会合開催に当たっての農林水産省の方々のご尽力に敬意を表するとともに、協議会の構成団体をはじめとした関係者、県民の皆さまのご支援、ご協力に対して、心より感謝申し上げます。

## ごあいさつ



G7新潟農業大臣会合開催推進協議会 会長 篠田 昭  
新潟市長

G7新潟農業大臣会合が、4月23日と24日に新潟市の朱鷺メッセで開催されました。関係者の皆さまからご尽力を賜り、安全の土台が確保され、成功裏に終了することができました。

日本を代表する大農業都市である新潟市で、農業を取り巻く新たな課題に対処するために必要な政策などが真摯に議論され、その成果が「新潟宣言」として採択されました。「新潟宣言」で掲げられた、高齢化や後継者不足など、課題に直面する農業者への支援や、農産物の付加価値向上と生産から加工、流通、消費までつなげる取り組みなどは、農業特区をはじめとする本市の農業施策の方向性と合致しており、今後も、さらにこれらの取り組みを充実させ、持続可能な農業を実現していきたいと考えています。

今回、開催地首長として、農業特区の取り組みや12次産業化の取り組み、日本初のレストランバスなど、新潟の新しい食文化創造の取り組みをご紹介させていただきました。

また、新潟市立万代長嶺小学校児童による花絵でのお出迎えや、同宮浦中学校生徒による朱鷺メッセ展望室でのパノラマガイド、そして市民ボランティアの皆さまからは、新潟の取り組みを紹介する展示や歓迎レセプションなどさまざまな場面でご活躍いただき、温かいおもてなしを行っていただきました。

日本酒や料理、市民芸能、古町芸妓などといった「新潟ならではのおもてなし」は、参加国・国際機関の関係者から高い評価をいただき、新潟の魅力を世界へ大いにアピールすることができたと考えています。

本誌は、G7新潟農業大臣会合において、本協議会が取り組んだ活動や会合の様子などをまとめたもので、今後の国際会議の誘致や運営の一助になれば幸いです。

多大なるご指導・ご支援をいただきました農林水産省をはじめ、本協議会の構成団体など関係者、県民・市民の皆さまからいただきましたご理解・ご協力に対し、心より感謝申し上げます。

コラム 1

## G7新潟農業大臣会合とは

### <サミットの概要>

G7サミットとは、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7か国の首脳並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して開催される首脳会議です。ウクライナ情勢を受けたロシアのG8への参加停止により、2014年以降G7サミットとなっているものです。

G7サミットでは、国際社会が直面する様々な課題について、首脳は一つのテーブルを囲みながら、自由闊達な意見交換を通じてコンセンサスを形成します。そして、その成果が宣言としてまとめられます。

G7サミットを開催する国が、開催する年の1月～12月の1年間、G7議長国となります。G7議長国は、サミット開催に向けた事前の準備会合や、実際の首脳会合や、また外相会合を始めとした閣僚会合の開催のための諸準備及び議事進行を行います。

これまで日本は1979年、1986年、1993年、2000年、2008年の5回議長国となっています。そして2016年、三重県志摩市にて、6回目の議長国としてG7サミットが開催されました。

### <G7新潟農業大臣会合の概要>

G7新潟農業大臣会合は、伊勢志摩サミット(5月26日・27日)の関係閣僚会合の1つとして開催されました。G7/G8としての農業大臣会合は、2009年にイタリアのチソン・ディ・バルマリーノで開催されて以来、7年ぶりとなりました。会合では、G7メンバーの農業大臣と国際機関からFAO(国際連合食糧農業機関)、OECD(経済協力開発機構)が参加し、G7メンバーの農業を取り巻く共通の課題の特定や課題克服に向けた具体的な方策などを議論し、「新潟宣言」が採択されました。

### <伊勢志摩サミット関係閣僚会合>

2016年、伊勢志摩サミットの開催に合わせ、新潟市をはじめ全国10都市で関係閣僚会合が開催。

